

18 我が街 船橋を歩く—神社仏閣(16) 三峰神社—

29期 仲田 元昭

今回は、前回ご案内の道祖神社の境内にある三峰神社をご案内します。

「三峰神社」

江戸時代になり神使の狼が、盗賊や災難から守る神と崇めるようになり、秩父の三峰神社を参詣する三峰講が関東、東北、信州等を中心に全国に組織され流行しました。

道祖神社も村を災難より守ることから、江戸時代に境内に建立されたと言われています。

「神社の神使 狼像」

三峰神社の神使は、狛犬ではなく狼ですが、この神社の狼像は優しい表情をしています。一頭で地域の50戸を守護する狼と言われています。

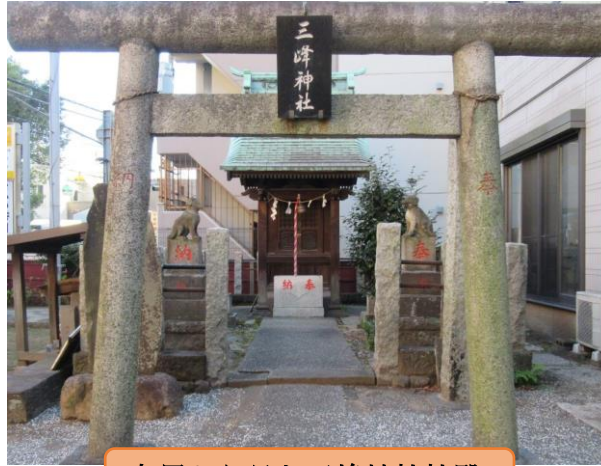
本殿に向かって右側が口を開いた阿形で、左側は口を閉じた吽形です。この狼像は明治35年(1902)9月に奉獻されました。

「神社彫刻の神獣」

本殿の屋根を支える4本の柱の上部の横木の先端(木鼻と言う)4箇所の角に、獅子頭や象鼻(長い鼻、2本の牙、頭の部分に丸いコブの動物)や獏鼻(鼻が象、体が豚に似た想像上の動物)や龍頭等の神獣が、取り付けられている神社が多くあります。

ここ三峰神社は小さな神社ですが、狼に似たような神獣でしょうか、大変珍しい陰しい表情の彫刻です。

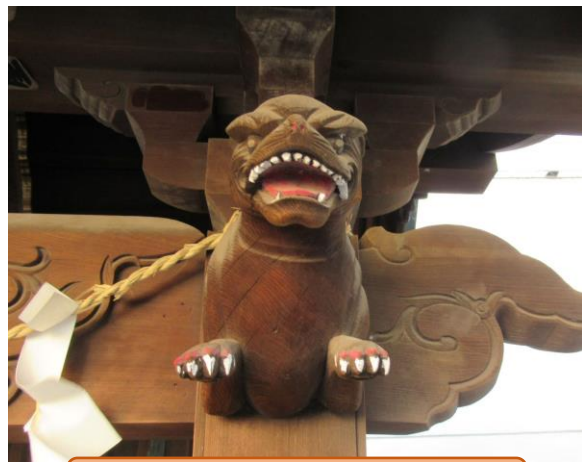
口を大きく開け、鋭い歯をむき出しにし、今にも襲い掛かってくるようです。神社彫刻にも視点を当て街歩きすると新たな興味が湧いてきます。



鳥居から見た三峰神社社殿



狛犬でなく狼像(阿形)



本殿木鼻の陰しい表情の神獣

「19 我が街 船橋を歩く 神社仏閣(17) 稻荷神社」に続く「2022-5-25 寄稿」